

## 令和7年度第2回 中原区地域包括支援センター運営協議会 会議録（摘録）

1 日 時 令和8年2月27日（金） 午後1時15分から午後3時まで

2 場 所 福祉パルなかはら研修室

### 3 出席者

#### (1) 委 員

村田委員、新堀委員、田中委員、亀井委員、長友委員、中村委員（6名出席）

#### (2) 事務局

川島地域みまもり支援センター長（中原福祉事務所長）

地域支援課：梅澤課長、衣袋係長

高齢・障害課：塚課長、井上係長、刈谷職員、米持職員

#### (3) 地域包括支援センター

佐藤センター長（すみよし地域包括支援センター）

佐藤前センター長（地域包括支援センターこだなか）

上原センター長（ひらまの里地域包括支援センター）

水野センター長（みやうち地域包括支援センター）

横山センター長（いだ地域包括支援センター）

太田センター長（とどろき地域包括支援センター）

### 4 欠席者

吉武委員、住田委員

### 5 議 事（公開）

(1) 令和7年度 中原区地域包括支援センターの取り組み状況について

(2) 令和7年度 中原区地域包括支援センター課題整理シートについて

(3) その他

### 6 審議経過

開 会

事務局 : <定刻>

<所長挨拶>

・今回は各包括の活動内容について、写真の投影も行いながら報告を行う。写真も参考にしながら報告内容を確認し、忌憚なく意見をいただきたい。

<委員紹介（名簿順）>

<資料確認>

<本協議会の根拠・目的等の確認>

- ・介護保険条例第5条及び川崎市地域包括支援センター運営協議会規則に基づく。
- ・地域包括支援センターの設置運営の関する事項や区内の地域課題の抽出、高齢者の見守り体制の構築に関する事項について審議する場。
- ・会議録は要約方式により作成。発言者がわかるように委員名を記載するものとし、委員に確認していただいた後に公開の手続きをとる。公文書開示請求等があった場合には、委員名は原則開示されることになる。
- ・会議録作成のために録音を行う。
- ・委員の過半数が出席。協議会規則第4条第2項の規定を満たし会議が成立している。

<進行を村田会長に依頼>

- ・「川崎市地域包括支援センター運営協議会規則」第4条第1項の規定に基づく。

## 議事

村田会長：<傍聴人の有無の確認>

井上係長：<傍聴人なし>

井上係長：事務局から【議題1】「中原区地域包括支援センターの取り組み状況について」説明。

- ・前回からの変更点（運営状況確認シートの導入）  
現在、市の地域ケア推進室において事業評価の方法等について見直しが進められており、それに合わせて区の運営協議会での報告方法も変更となっている。見直しは「センターの活動内容をより定年に点検し改善していくために、実務に関する振り返りと現状把握の強化」が目的。運営状況確認シートは事業計画で設定した目標と統一指標を組み合わせたもので、センターの特徴や強みを数値からも確認できるようにするとともに、1年間の目標と実施した取り組み内容を1枚で確認できるようになっている。
- ・本日の進行  
各包括の報告後に、包括ごとに意見・質問をいただく時間を設ける。会議で挙げた意見については運営状況シートの運営協議会からの意見欄に記載して本課へ報告する。このシートを通信簿として捉えるのではなく、各包括の強みや課題を把握するための一つの目安として確認していただきたい。

<各包括センター長より「運営状況シート、写真資料等」を用いて説明>

すみよし

**包括** : 重点目標は令和6年度に引き続きチーム作りを掲げ活動してきた。具体的な取り組み状況として本日は3点を紹介する。

・チームづくり（人材育成）

経験の浅い職員が多い点について、センターの中に限らず川崎市内にある同法人の運営する6つの包括の横のつながりを生かして、職員間で研修を企画、実施した。地域において、ケアマネサロンをセンター長主導ではなく、介護支援専門員の職種の職員が中心となって企画をした。

・地域住民、事業者等とのつながりの強化

地域の小学校での認知症サポーターの養成講座の開催をきっかけに、今年度は福祉体験講座を開催。車いす体験等を通して、障害者、高齢者が地域に出る際の大変さを実感することで思いやりの心をはぐくむこと等がねらい。結果は好評で、後日各学校の学習発表会でも生徒たちから経験したことを報告するという取り組みが行われていた。

・住吉第1地区でのサロンの開催

今まで主催事業が少ないことが課題であった住吉第1地区において、今年度1年かけてサロン運営に取り組み、令和8年2月にプレ開催を行った。運営にあたって地域リハ拠点の理学療法士や近隣の看護小規模多機能型居宅介護の生活支援コーディネーターの協力を得たほか、ボランティアとして地域住民の方も打ち合わせの段階から参画してもらい、一緒に企画を練ってきた。プレ開催の際には40名ほどの地域住民の参加があった。会は気軽にお茶を飲んでもらう場所としている。理学療法士による体操の時間も設けた。今年の4月から月に1回定例開催の予定。毎回誰かしら専門職がいるようにすることで、「困ったことがあったらここに」と思える居場所づくりを目的に企画を練ってきた。

**田中委員** : 数年前、包括から同法人の運営する居宅支援事業所に引き継がれた高齢者について、緊急時に情報提供を行ったものの、既に事業所で対応済みとして民生委員らが提供した情報について対応してもらえなかった出来事があった。必要な場面では民生委員の意見も聞いてほしい。法人内でぜひ民生委員との連携についても共有してほしい。

すみよし

**包括** : 法人内で共有していく。

**新堀委員** : サロンのプレ開催に40名という多くの人数が集まった背景には、何か広報の工夫があったのか。どのように広報をしたか聞きたい。

## すみよし

**包括** : 広報には力を入れて取り組んだ。いこいの家、区内の各包括にチラシを配架したほか、リハ拠点となっている事業所が医療生協の法人であったため、近隣の生協のスーパーの会員あてに届く手紙にあわせてチラシを送付してもらった。その他、地域の訪問看護、訪問介護、居宅支援事業所等へも案内をし、介護を担う家族に対して「日中本人がデイサービス等で留守にしている間に来られたらぜひ」と紹介してもらうことができた。プレ開催に際してチラシを700部用意したが、結果的に全て配りきることができた。

## こだなか

**包括** : 職員の出入りが多く経験年数が1年未満の者もいることを踏まえ、今年度の基本目標、重点目標は昨年度と同じ「地域へ発信・臨機応変・発想豊かな対応ができる包括へ」を掲げて活動してきた。

- ・年に4回「こだなか便り」の発行  
地域住民や他職種への情報提供及び連携を図るために、年に4回包括独自の広報誌を発行している。全町内会に回覧板、掲示板への掲載をしてもらい、多くの人の目に留まる状況を作ることができた。
- ・職員同士の連携・専門性の向上  
包括内の上司、同僚へ相談、アドバイスをしあう職場づくりを行うとともに他包括にも足を運び、知識や活動内容の共有を行った。
- ・民生委員との連携  
近隣の公園での体操、毎月の民児協の定例会への参加を通して顔の見える関係性づくりができている。これによって、各民生委員より近隣の心配な住民に関する情報提供、初回訪問の同行の協力を得ることができている。
- ・外出機会の創出（一人暮らし高齢者へのアプローチ） 3例

### カフェおおがやとの開催（昨年10月に初開催）

昨年10月に開催。5年前に構想したもののがコロナウイルスの流行により中断していた。昨年4月から会議を重ねて実現に至った。一人暮らしの高齢者20名程度の地域住民の参加の他に、10名程度ボランティア、民生委員、包括職員が参加し合計30名程で当初の想定より大きな規模となった。その後も40名程度の参加者で継続開催できている。開催場所が子ども文化センターであることから子ども連れの参加者も複数組あり、多世代の交流につながった。

### ごうじサロン・しんじょうサロン

いこいの家にて2カ月に1回開催。半年に1回「健康チェック」を開催。踊りや体操等参加型のプログラムにしている。毎回10名程度の参加がある。

田中委員： 民児協の定例会等に包括が参加して顔の見える関係性が出来ていると、心配なことがあった際に情報共有、相談がしやすく良い。他の包括でもぜひ実践してほしい。

## ひらまの里

**包括** : 今年度は1名欠員スタートしたが、12月に保健師1名が加わり、人員が充足した状態で新しい年度をスタートすることができる見込み。欠員状態が続いた中でも、職員配置の工夫により従来から行っている事業を継続して開催することができた。

- ・毎週金曜日のウォーキング

平間公園に広がる四季折々の花や鳥を眺め、談笑しながらウォーキングをしており、毎回10名程度の参加を得ている。近隣の看護小規模多機能型居宅介護の地域コーディネーターの方が毎回参加してくれていて、日ごろから連携できる体制を構築できている。

- ・ロボマスコット作り（ロボ隊）の活動

昨年は合計1000体を超えるロボを作成。認知症サポーター養成講座修了者の手へ提供することができた。小学校高学年の生徒への認知症サポーター養成講座では、ロボの作成を担う地域住民に直接渡してもらうことで世代間の交流ができた。

- ・年4回の介護予防教室の開催

コグニサイズ、体組成、栄養、口腔機能の4つをテーマに実施。それぞれ講師を招いたり、機器を導入して実際に計測を行うことで毎回盛況となった。次年度以降についても既に開催計画を立てている。民生委員等の協力を得ながら広報に取り組んでいきたい。

- ・介護予防ケアマネジメントについて

相談、サービス利用者が徐々に増加している状況。定期的に地域のケアマネジャーの空き状況の情報を得る機会があるため、担当ケアマネジャーを決めて具体的に介入していくまでの時間が短縮されている。他区の包括からは、なかなかケアマネジャーが見つからない、包括自身も給付管理数が圧倒的に多く介護予防ケアマネジメント業務に忙殺されているという状況を聞いているが、ひらまの里ではケアマネジャーに依頼をスムーズに行うことができているため、自主活動、日々の相談支援にも力を入れて取りくむ時間が生まれている。

## みやうち

包括 : 地域のつながりを強めるため、主催事業・共催事業を確実に継続できるよう力を入れて取り組んだ。

### ・主催事業

介護予防を目的に体操を月2回中原区のパンジー体操を行っている。平成18年に発足し、20年以上継続して参加している地域住民も2名程いる。出欠等をとる事業ではないものの毎回参加している方の姿が見えないと、他の参加者から「今日はお休みと連絡が来た」と報告を受けるなど、地域住民同士がコミュニケーションをとるきっかけにもなっている。

### ・共催事業

宮内地区の町会自治会、認知症高齢者グループホーム連絡会らと連携してみやカフェを開催。のんびりウォーキングは月に1回開催しており、集合場所がとどろきいこいの家の前であるため小杉地区の住民の参加が多い。

現在、みやうち包括の管轄の中で丸子地区について主催事業がなく、後方支援のみとなっているため来年度は丸子地区の子ども文化センターの館長や民生委員の協力も得ながら事業を作っていくたい。

### ・認知症サポーター養成講座

宮内小学校、わくわくプラザの2か所で実施。受講証明として配布したロバのマスコットをランドセルにつけている姿を見たという報告も受けており、地域に浸透していることを実感した。

### ・多問題、困難ケースが増加傾向

要介護の認定が出てケアマネジャーに一任して終わり、ではなく引き続き包括も一緒に関わる世帯が増えている。今年度は同法人のすみよし包括と毎月職員同士で勉強会を開催。自身が勉強したいテーマを選んで発表し合うという機会を設けて資質向上に取り組んだ。来年度は中原区内の他包括や同じ法人内の他区の包括ともこうした機会を作り、協働してケアマネジャー支援に力を入れて取り組んでいきたい。

亀井委員 : グループホームの連絡会の立場から発言。宮内地区の子どものNPOからコラボをしてほしいという依頼を受けている。目的は多世代交流。3世代が一緒に集うような空間を作りたいという声が挙がっている。夏休みや春休みなどの期間を利用して、包括の協力も得ながら作っていききたい。

## いだ

包括 : 産休、退職により現在2名欠員状態。事業がストップする、相談者を待たせてしまう等の影響は出ていないが、常に追われているような状態。主催事業についてはカスタリズム、健康麻雀を開催中。事業内容については半年前と大きな変更点はないため、今回は相談者の気持ちをほっとさせるような工夫、プラスアルファの取り組みについて紹介する。

- ・癒しの相談室（写真参照）

相談室の壁にステンドグラス風の装飾を施した。いだ包括は病院に隣接している影響もあるのか相談者が疲れた様子であることが多い印象だったが、装飾を見て「かわいい」との声をいただいており、ほっと肩の力を抜く一助となっているように感じる。

- ・井田のアンブレラスカイ（写真参照）

ポルトガル中部で10数年前に生まれた、商店街を歩く人や観光客向けに日射病や熱射病の対策として日差しを避ける目的で色とりどりの傘を敷き詰めるイベントを参考に装飾を施した。いだ包括は山の上に位置し眺望が良い特徴があるため、傘の装飾とあわせて景色を楽しんでもらうことができる。

- ・牌ストラップ

使われなくなった麻雀牌を再活用してストラップを作成。包括への初回相談者や、健康麻雀のボランティア勧誘の際に配布している。話のきっかけにもなるため幅広い場で活用している。

## とどろき

**包括** : 今年度は変革の年となった。センター長が6月に交代、職員6名のうち3名が今年度入れ替わり、一番経験の長い職員でも在籍期間が2年半という状態で、経験年数が少ないという面で非常に厳しい環境に置かれていた。ただし、そのような中でも相談件数が例年よりも非常に多かった（運営状況シート 2. センターの基礎情報（○新規・再相談件数）参照）。相談体制の維持ができるよう、複雑な相談案件については複数職員で対応したほか、町内会、他包括、行政等の協力を得ながら取り組んだ。これにより、重大な対応遅れ等発生することなく年度末を迎えることができた。一番の重点目標として掲げた「相談場所としての定着を図る」という点について、具体的な取り組みを紹介する。

- ・市ノ坪地区 まちあるき（写真参照）

自治会ごとの特徴について情報収集を行うことが目的。小杉第2民児協への参加や地域活動への活動支援を通して日頃から情報交換をしているほか、今年度は市ノ坪地区に関して、10月と1月に地域ケア圏域会議という形で課題の整理と街歩きを行った。町会長、民生委員、行政職員らが参加。ごみ問題や地域の活動場所の不足についてや外国人コミュニティとの関係づくりについての話が挙がり、机上だけでは見えないような問題点や実情を確認することができた。

- ・フレイル予防口座（写真参照）

介護予防の普及啓発。4月には「春を見つけながら歩く」をテーマにウォーキングを開催。そのほか口腔ケア、転倒予防等フレイルに関係するテーマをもとに講座を4回開催した。なるべく参加型のイベントとなるように工夫し、延べ67名の参加があり非常に好評だった。

- ・ウエスの会（写真参照）

とどろき包括主催のボランティア活動。福祉パルにて、使わなくなった衣服等を活用して特別養護老人ホームや保育園で使用するウエスを作成している。写真からも雰囲気伝わるように、参加者のボランティアの方々は皆非常に集中して取り組んでいる。作成から施設、保育園に届けるまで一気通関の流れが出来ているためこの体制を維持していきたい。来年度はウエスに加えて認知症ケアに使用されるマップづくりも行って参加の裾野を広げ、手作業の機会も増やしていきたいと考えている。
- ・認知症サポーター養成講座（写真参照）

今年度は計10回現時点で開催しており、174名の参加があった。写真はJR東日本で実施した会。小学生から大人まで様々な世代を対象に実施が出来ているため来年度も維持していきたい。
- ・マンダラチャートを活用した包括内での目標管理（写真参照）

大谷翔平選手が活用していて有名になった目標管理の手法を用いて包括内でワークを実施。取り組みたい事項について職員同士で議論をし、方向性を合わせていくことが目的。現在自分たちに足りないものを客観的に見ることもつながっている。来年度も経験が浅い職員が中心になるからこそチームで支え合えるよう工夫し、地域に根差した包括を目指していきたい。

**刈谷職員：**＜令和7年度中原区課題整理シートについて説明＞（資料3参照）

第1回運営協議会で報告した課題、それに対する対応策について、各包括から実際に行った取り組みについて報告を受け、それをシートにまとめた。4つの重点目標について順に説明を行う。

- ・孤立している人の実態把握

包括：包括主催事業開催ジヤ町内会、民生委員が主催している事業、集合住宅等に出向き周知活動を行った。その他、チラシやYouTubeも活用。

区：年に1回の高齢者生活状況調査を通して実態把握を行い、必要がある高齢者に見守りを開始した。実態把握ができない高齢者に対しても各課が調査を行った。
- ・認知症等に対する支援強化

包括：認知症支援事業チーム会議にて初期集中支援の対象として関係機関と連携、対応を行った。日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用へつなげた。認知症サポーター養成講座を市内の学校や会社等へ向けて実施した。

区：包括職員と一緒に訪問し、日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用につなげ、他の方法がない場合は市長申立てを行った。関係各課との連携に努め適宜情報共有を行った。

- ・身寄りのない人の支援強化  
 包括：川崎市未来あんしんサポート事業や任意後見制度の照会を行ったものの、委託金が高額になるため利用に繋がらないケースが多かった。結果的に包括が対応せざるを得ない事例も多かった。  
 区：包括、あんしんセンター、他課と連携し対応した。
- ・民生委員、町内会、自治会等地域との連携強化  
 包括：民協、圏域会議、民生委員主催事業に参加し連携を深めた。  
 区：民協、圏域会議、地域ケア推進課主催会議に参加し連携を深めた。
- ・地域包括支援センター職員の専門性を高める  
 包括：区内の他の包括との連携、法人内研修に参加し交流を深めた。同行訪問、毎日のミーティングにて皆で相談し職員が孤立しないように対応している。  
 区：各包括の職員の集まりの機会について確認の場を持った。必要に応じて包括職員の相談に乗り一緒に相談対応をした。
- ・地域包括支援センターによる支援方法の強化  
 包括：各会議に共有、検討を行うことで支援の方法について対応力を高めた。  
 区：地域ケア会議に参加、相談支援・ケアマネジメント推進委員会で定期的に委員会、研修を開催し対応力を強化することができた。
- ・区役所関係各課との円滑な連携  
 包括：対応困難なケースが多々あったが各課と連携、対応に努めた。  
 区：関係各課（係）と円滑に連携できた。
- ・高齢者が参加しやすい居場所づくり  
 包括：主催事業・共催事業ともに町内会や民生委員と協力し事業の継続や新規立ち上げを行った。活動の際周知に力を入れて取り組んだ。  
 区：各課と連携し情報共有、情報提供を行った。
- ・ケアマネジャー支援  
 包括：中原区内全包括合同で事例検討会を行いケアマネジャーの負担を軽減できた。同行訪問、調整会議、圏域会議等開催し、ケアマネジャーの資質向上に努めた。  
 区：相談支援・ケアマネジメント推進委員会にて研修を開催し、ケアマネジャーを支援した。
- ・中原区介護支援専門員連絡会（中マネっと）との連携  
 包括：中マネっとと情報共有、単独居宅のケアマネジャー向けにサロンを開催した。  
 区：相談支援・ケアマネジメント推進委員会にて情報共有。中マネっとで困っていることについて研修を開催した。

村田会長：〈質問の募集〉

亀井委員： 本日の各包括からの話を聞いて、職員の充足率、定着率も上がってきていると感じた。法人毎に人事異動があると思うが、それにより現場のバランスが崩れ、センター長がその度に立て直しに尽力するという場面を何度も見てきた。各法人では人事異動の際にもう少し現場の声を丁寧にヒアリングしてもらえるとよいのではないか。介護職員の離職の理由に関する調査結果が先日出ていて、そこでは理念が合わない、人間関係が上位に挙がっていたため、包括でも同様にそのあたりを考慮した人事配置に取り組んでほしい。  
ほか、川崎市として賃金の面で補助金等の対策をしているのかどうか知りたい。

刈谷職員： 職員の定着率という面では、川崎市において業務検討委員会という会議が定期的開催されている。 新任職員等にどうやって定着してもらうか等を検討している。そのほか、各区の包括、行政職員が集まってワーキングチームを作り、毎年テーマを決めて具体的に課題に対する改善策の検討、研修の開催等に取り組んでいる。スライド23ページに川崎市における包括の3職種配置数と充足率の推移が掲載されるため、参照してほしい。

井上係長： (資料1 スライド3参照) 川崎市の具体的な施策として、「委託料」における人件費の引き上げ、職員配置基準の見直しによる充足率向上、「職員の定着促進及び相談機能の向上に向けた研修体系及び職員フォローアップ体制の整備」、「介護予防ケアマネジメントの事務負担軽減」、「業務効率化、事業評価・報告の簡素化による事務負担軽減」などの取り組みがある。

亀井委員： 厚労省が力を入れている生産性向上について。包括では会議録等を作成する機会が非常に多いと思うが、会議録自動作成ツール等の購入に関する補助金を川崎市から出して、全包括に一括で同じツールを導入することはできるのか・

堺課長： 現時点では、委託契約の中で各包括それぞれの会計となっている。 備品の購入だけでなく、人員配置の考え方についても包括の運営法人に一任している状況。

村田会長：〈議事の終了〉

全体を通しての質問、意見等の募集

長友委員： 継続して賃金が安いという現状がある。東京以外の自治体は賃金面からも人材確保に苦慮している。国としての対応も必要だが、人材確保のため川崎市としてもぜひ重要課題として取り組んでもらいたい。

行政のほうでも研修を行い制度や知識等の理解を深める工夫をしているとは思いますが、各包括のテーマに挙げた「連携による支援」については、現実にはまだまだ課題があると感じる。相談が地域から入った際に、包括としてすぐに動くことができないという場面は多々あるように感じる。緊急時の対応を迅速に行うことができる体制をつくり、包括的な相談を受ける窓口としての機能を果たしていくためにも、夜間や休日人・モノ・金の確保、強化が必須。

地域で生活している中で、認知症の方が徘徊して姿が見えなくなったことで家族がどこに相談してよいかわからないまま周囲を探している場面に出会ったことが何度かある。認知症SOSネットワーク事業の周知等、必要な人に必要な情報が適切に伝わるように、地域の情報発信拠点としての役割もより強化していってほしい。

**田中委員：** 民生委員の立場から。民生委員の改選があり、12月に交代。成り手がなかなか見つからない現状があり、川崎市全体では充足率が74パーセントであるものの、中原区では市内で唯一90パーセントを超えている。中原区では12月に63名新しく民生委員となり、3月に2名加わって計65名が民生委員の業務を始めて担うこととなる。包括の電話番号については既に共有済み。何かあったら連絡するよう伝えているためぜひ協力してほしい。

**川島所長：** 各包括はどのくらいの頻度で民児協に参加しているのか。

**各包括：** 毎月参加している包括、年に1回参加している包括に分かれた。全包括、年度に1回は必ず民児協に顔を出している。

**井上係長：** <事務連絡>前回の会議の際に挙げた意見についてのフィードバック（川崎市の地域包括支援センターへの支援の取り組みはどうなっているのか）は、会議の際に重複した話題が出た際に回答をしたため割愛する。

**堺課長：** <終了の挨拶>来年度の運営協議会は10月を予定。